

名古屋港への外航クルーズ船の寄港増加に向けた課題と展望要約

背景

- 大型の客船を利用し、リーズナブルな価格で楽しむことが出来る現代クルーズの普及
- 外航クルーズ船の日本国内港湾への寄港、日本発着クルーズの増加
- 経済効果が大きいことなどから、国内港湾の外航クルーズ船誘致競争の激化

提言骨子

【名古屋港の港湾施設】

- ◆ ガーデンふ頭に着岸できない大型外航クルーズ船に対し、**金城ふ頭での受け入れ**(短期的には利用調整や機能強化、長期的には物流機能との棲み分け)を検討する必要がある

【外航クルーズ船寄港時の対応】

- ◆ 全国クルーズ活性化会議の活動を通じて**CIQ手続き短縮に向けた取り組み**を進める必要がある
- ◆ 大型外航クルーズ船の受け入れ地での**CIQ施設の確保に向けた取り組み**を進める必要がある(短期的には既存施設の有効活用、長期的には必要であれば施設整備の検討)
- ◆ **乗船客の心に残る「名古屋港ならではの」歓迎・お見送りを実施**するとともに、**ハード・ソフト両面で外国人観光客の利便性向上**を図る必要がある

【背後圏観光との連携】

- ◆ 外国人観光客の趣味嗜好に合わせた**パッケージ化された観光ルート**の策定や、クルーズ商品の拡大に向けた**セントレアを活用したフライ&クルーズの推進**が重要である
- ◆ 背後観光地の魅力・知名度向上に向けて、**昇龍道プロジェクトの推進**、**キラッと光る新たな魅力の発見**が重要である

【外航クルーズ船誘致の取り組み】

- ◆ 海外船社等に対して、**港湾と観光に強みを持つ各組織が連携**し、他港や他地域との差別化を図るよう**戦略的なポートセールスを実施**する必要がある
- ◆ 日本の中央に位置し、各地への交通アクセスの利便性が高いという名古屋港の利点を積極的に売り込むことが大切である

【情報発信】

- ◆ クルーズ需要を喚起するため、インバウンド増加に向けた**中部観光の魅力発信**、アウトバウンド増加に向けた**クルーズの敷居を下げるための情報発信**が必要である。
- ◆ 地域一体となった外航クルーズ船の誘致・受け入れに向け、**地元関係者の機運醸成を図るための情報発信**の強化が必要である

各分野の関係者が同じ目標を持ち、お互いが連携しながら、**名古屋港への外航クルーズ船の寄港増加を実現する必要がある**
(行政、関係団体、企業、一般市民などが一丸となって取り組む体制作りも効果的)